■2025年度里山農教室計画／2/1日スタッフ会議結果

2025/2/1

1．作業負荷の分散のため、1チーム実働20名程度を確保する。（昨年は1チーム23名なるも実働10名程度）

2．チーム単位に自主的な活動展開を図り、作業の「やりがい」を醸成する。

(1)チームを3チームとする（になる）。・・・2年次生以上：52名＋ユーティリティー：11名＝63名

(2)ユーティリティーメンバーを各チームに割り振る。 但し、必要に応じて全体作業を実施する。

(3)統括リーダー、サブリーダー、庶務事務チームは、各チームに属さず、作業全体を統括する。

(4)チーム毎の作物担当制にあらため、2年次生以上全員が各チームの担当作物を1つ以上もって作物の管理にあたる。

各作物の栽培方法は、全体の圃場割り、輪作計画に抵触しない範囲で、自由に選択し、「楽しい栽培」を目指す。

(5)二輪耕運機が各チームに欲しいが、耕作面積自体は減少するため、機械の補充は見合わせる。（口原さんより1基寄贈の提案あり）

(6)収穫物は、各チーム毎ではなく、全体で分配する。

3．特に、夏季の除草作業など、作業負荷を軽減する。

(1)春作の栽培作物を2品種減らし、夏季の作業負荷を軽減する。

(2)春作のとうもろこしは、寒害、虫害により栽培難度が高いことから、栽培作物から外す。

(3)春作のさつまいもは、ファームの主要作物と重複するため、農教室の栽培作物から外す。

(4)秋作のにんにく・玉ねぎを外してはとの提案もあったが、農教室期間外の管理は定例活動で対応することを基本に継続する。

(5)栽培作物を2品種減らし栽培面積を22%削減することで、作業負荷の軽減を図る

(6)農教室の圃場は、ふれあい通り圃場とみかん山下圃場に特化し、城址下圃場は農教室の管理圃場から外す。

4．各作物の栽培圃場は、6年間の輪作計画に基づき管理する。

(1)ふれあい通り圃場とみかん山下圃場は、200～240㎡の8区画に分け、輪作計画に基づき各作物の栽培にあてる

(2)上記8区画別に定めた作物について、各区画をA，B，Cの3チームで3分割し、それぞれのチームが主体的に栽培管理にあたる。

(3)各区画のロータリー耕耘や元肥施肥は、区画毎に一括して行うが、その後の栽培管理は各チーム毎に実施する。

5．各作物ごとに栽培負荷の軽減策を検討し、栽培に反映する

(1)かぼちゃ：育苗の廃止→購入苗（接ぎ木苗など栽培難度の低い品種の選択を含む）の使用

一方で、うどんこ病耐性種を栽培するためには、種からの育苗が必要

(2)白ねぎ：一本ねぎを分けつねぎに変え、育苗を廃止する。

(3)落花生、じゃがいも：栽培品種を1本化する。

(4)玉ねぎ：育苗せずに直接播種する方法もある

(5)稲作：黒米＆うるち米をうるち米に1本化する。 黒米は子どもチームが細長田圃で栽培し、脱穀（外部委託を含む）を含めて対応する。

6．1年次生の希望者は、入門コースを設け、1年を通じて、入門コース専用圃場（城址下手前圃場）で、個別の栽培を体験する

(1)農業経験のある1年次生も、1年間は初級コースを受講する。

(2)講師は、松元、桐石、大狭正、宮平の4名を予定する。

7．1年次生のメンター制度は、入門コース講師並びに庶務事務チームが相談窓口として対応する。

8．ふれあい機会の充実（復活）

(1)早苗饗　(4)そば祭り　(7)マルシェ：秋にハロウィンマルシェを開催検討

(2)収穫祭　(5)餅つき大会

(3)案山子祭り　(6)「森のカフェ」を運営してはどうか

9．サマータイム制について、始業時間を早めることはせず、終業時間を早め、作業時間を短くすることで対応する。

以上